

DOYU

I W A T E

10
Oct.

2020
Vol. 143
同友いわて

「人生には何一つ
無駄なことはない」
～何のためにを問い続けて
ミルクグラスクロゼット
代表 山内 まどか 氏



「人生には何一つ無駄なことはない」

〜何のためにを問い続けて

ミルクグラスクローゼット

代表 **山内まどか氏**



一見すると外から見ると子ども服屋さんらしくない。「何屋さんだろう？」車の往来が多い道路沿いの角地に、日本では手に入りにくいブランド

の子ども服を海外から直輸入、販売するミルクグラスクローゼットがあります。小さな紫色の花びらの仙台萩が豊かに茂る玄関を入ると、一

点ものの数々の可愛い子ども服が目を引きます。

創業社長の山内氏は、兄妹4人の2番目の長女として昭和53年に盛岡に生まれました。専業主婦の母親、自営業の父そして祖父母と一緒に暮らしていました。小学生の頃に母親が癌になり、中学校の時には入院の繰り返しでほとんど家にはいませんでした。そんな母親が42歳の若さで他界したのは、山内氏が高校2年生の時でした。

母親の死をきっかけに「人はなぜ生きなければならぬのか。」毎日考えるようになりました。でもいくら考えても「生きる意味」の答えはできません。考えてもどうしようもないと思うようになると今度は「自分も早く死ぬかもしれない。いろいろなことをし

て後悔しないような人生を歩みたい」と考えるようになりました。

自分には時間が無い。そして転職の繰り返し

高校を卒業後すぐに就職をしました。就職して一番最初にやったのは、自分に生命保険を掛けることでした。母親はもういません。父親は新しい家庭があり、ほとんど不在だったので誰も助けてくれる人はいませんでした。もし自分が病気になっても小さな妹や弟に迷惑をかけないようにするために。

就職した会社では経理事務をしていましたが、「もっとスキルアップがしたい。自分には時間がない。」と3年間勤め転職しました。次の就職先は配送業の接客とクレーム処理などをしましたが、もっと知りたいと思う熱は冷めませんでした。次に訪問販売をしますが半年で退社。そして以前働いていた宅配の会社から声を掛けられ再就職することになりましたが、子どもができたことで仕事を辞めるこ

とになり専業主婦になりました。

皆が働く場所をつくりたい

当時、酒造会社のレストランで働いていたご主人が、突然「独立する」と言い出しました。「いつかは自分で店を持ちたいんだろうな」と思っていたので、その時は驚きでしたが、平成20年に地産地消和食居酒屋「匠の」をオープンしました。そこで一緒に手伝いをしていましたが、長女が誕生したことで気持ちに変化があらわれました。

長男、次男と男だったので初めての女の子ということもあり、とても可愛くて仕方がありません。「この子にかわいい服を着せたい」と思いましたが、盛岡には着せたいと思う子ども服のお店がありませんでした。ちょうどその頃、妹も子育て中で、時間があれば少しでも働きたいということもあり、それなら自分たちでお店を開いた方がいいと思

の3階に「ミルクグラス」をオープンしました。

商品は、ユーズド女性服をメインにしていますが、輸入していた子ども服も一緒に販売することになりました。

しかし幅広いサイズの子どもの服を置くことで次第に手狭になり本宮に移転することにしました。移転を機に店名もミルクグラスからミルクグラスクローゼットに変え、今度は子ども服をメインにスタートしました。スタッフも月に1回だけの方や子どもの長期休業の時に来る方、イベントだけの方などで、その時思い描いていたのは「みんなが働く場所」でした。

新たな事業の迷い 決断

沢山の方々との関わりの中で、障がい者福祉に興味を持つようになりました。障がい者福祉事業で作られた商品で商品力で売る「Jam With Brilliant (ジャムウィズブリリアント)」という販売会を企画し開催しました。「素晴らしい

才能が集まっている」という意味があるこの販売会は、岩手県内の福祉作業施設と連携し行われるイベントです。

4年前に始まり現在7回目になります。福祉事業所と関わりを持つようになり、徐々に自分でも事業所をやりたいという気持ちになりました。そのため、この店を閉めるべきかどうか迷いましたがその迷いを決断させてくれたのは妹やスタッフの言葉でした。

「ミルクグラスに来てくれるお客様がたくさんいる。閉めるなら自分たちでやるので続けさせて欲しい。」と言われ、「どちらもやる」という決意をさせてくれました。そこで1階では店舗、2階で事業所をやる物件を探し、2018年3月現在の店舗に移転しました。

一人で悩み続けた 孤独からの脱却

5月に法人を立ち上げ8月に障がい者福祉事業を開所しました。ミルクグラスコーナーで販売するアクセサ

リーなどを福祉事業所の利用者さんに制作してもらい販売していました。

ある時、同友会会員の幸呼来Japanの石頭社長が店舗に訪れました。同じ障がい者福祉事業を行っているので様子を見に来たと思いましたが、違っていました。「同友会というのがあって」と突然話をされ石頭社長から詳しく聞きました。話を聞き、これから福祉事業を始めるなら「勉強するしかない」と思い入会することに決めました。

しかし、入会をしたものなかなか参加できずにいました。そんな私を石頭社長が何度も例会に誘ってくれました。これを機に例会に参加するようになり、気持ちに変化があらわれました。今まで一人で悩んでいたので社長は孤独だと思っていました。でも会社の大小にかかわらず悩みは変わらないことが分り、辛さが一気に解消されました。「自分が得たかったことがここにある。なんてすばらしい会なんだ」と、同友会が好きになり例会にも進んで参加す

受講したことで 決断できたこと

るようになりました。

私が岩手同友会の第14期経営指針実践塾を受講するきっかけを作ってくれたのも石頭社長でした。その頃、今までなかった社員との問題も発生。社員同士のもめごとも絶えず悪循環に陥り石頭社長に相談する日々でした。受講の話も出ましたが精神的に最初はとてもその気持ちにはなれませんでした。でも石頭社長は「こういう時だからこそやるべきだよ」と何度も言われ半年間の実践塾を受講することにしました。

第1講目に参加し、実行委員としてかかわってくださった先輩たちが沢山いました。「なぜ人のためにこんなにしてくれるのだろうか」と非常に驚く反面、社内のことでも人間不信に陥っていたので「この世で一番怖いのは人間」と思っていた私は、関わってくれる先輩方の言葉を素直に受け入れられませんでした。実践塾では「なんのために」

を問われることが多くあります。混乱し答えが出ませんでしたが心を落ち着けて考える中での自分の生き方を問われているような気がしました。小さいころから「生きるとはどういうことか」をずっと考えてきました。生きることは「今、自分が何のために」を考えながらやっていること。「なんのために」を考えずして理念もつけれないということがしっくりきました。しかしイメージは浮かんでも言葉にすることがなかなかできませんでした。

何度も問われ考え自分と向き合う時間がたくさんありました。結果、昨年の6月末で福祉事業所は閉所することにしました。考え抜いて決められたことで前向きな決断でした。

人生には何一つ 無駄なことはない

実践塾に参加し、自分が今まで感覚だけで経営してことや社員をしっかりと見ていなかったことがわかり、働いていた方には本当に申し訳ない

気持ちでいっぱいでした。自分の一番のベースである「みんなの働く場所をつくりたい」という想いがあったはずなのに、ミルクグラスへの向き合い方が違っていたためにこういう結果にはなっていました。だからこそ今いるスタッフや「ミルクグラス」をもっと大切にしていかなければいけないという気持ちが強くなりました。

自分ではじめて店だから自分で完結しなければと想っていました。が事業承継する選択肢があることにも気づかされました。スタッフにも自分の想いを伝える場を設け、終わらせることではなく発展させることに意識を向けることを学びました。そして福祉事業所は閉所しましたが、今後は障がい者雇用をやっているような会社をめざしたいと思っています。

人生には何ひとつ無駄なことはありません。全部が繋がって自分の栄養になっていきます。これからの人生も自分の能力を精一杯使って行きたいと思っています。

支部地区・委員会通信

盛岡支部

8月25日(火)カガヤ肴町ビルを会場に、盛岡支部8月例会が行われました。

コロナ禍の中、webでの小グループ会を中心に行ってくださいでしたが、久しぶりの例会開催に会場に集まった方は笑顔であいさつを交わす温かい雰囲気が始まりました。

今日は、(株)エムデイワンまごころみるく 代表取締役 下村善勝氏を進行役とし (株)仙北造園 代表取締役 佐藤康之氏、(有)くらし建築工房 中村喜一氏、(株)幸呼来



Japan 代表取締役 石頭悦氏に「語ろう!! これからの展望と地域の未来を」10年後、20年後の姿を描くため

に、をテーマに、コロナ禍で会社がどう変化したのか。そして今後どのようなことに取り組んで行きたいのかを語っていただきました。

コロナ禍の中だからこそ、展望を語ろう

佐藤氏からは、「この状況の中現場に行かずリモートで仕事ができることを経験しました。人の移動が難しい環境で、今後はいかに非接触で仕事をすることも考える必要があると思います。これからは、自分たちの仕事が社会に役に立ち、仕事を通して自然と共生できる社会づくりを社員と一緒に取り組んでいきたい。」

そして石頭氏は、「今まで社員と話す時間がなかなか作れませんでした。コロナ禍だからじっくり話し合う時間を持つことができました。障がいのある方々が社会に出て働ける場所をつくることで、よりよい地域につながる活動

を今後も継続していきたいと思っています。」

中村氏からは、「コロナ禍の中だからこそ、人と人とのコミュニケーションの繋がりが大事になってきます。仕事を通して、お互いの存在感が信用、信頼の密度を濃くしているのではないかと感じました。だからこそ、社員一人ひとりが地域に期待され応えられるような仕事をしていくことで自分たちの仕事に誇りを持つていきたいと思います。」とどんな状況でも展望を描くことの大切さに触れる例会となりました。

紫波花巻支部

8月26日(水)紫波花巻支部8月例会がオガール大スタジアムで、会場参加とZoomオンラインのハイブリット型例会として開催されました。

報告者は(株)肉のふがね 代表取締役 府金伸治氏より「岩手の農・食を繋いで世界へ発信!」短角牛で顧客満足から顧客感動へをテーマにご報告いただきました。



肉のふがねは、岩手町に昭和47年に府金氏の父が創業。府金氏が父から引き継ぎ、創業54年今も地域の『肉屋』として「肉の美味しさを最大化して人々にお届けすること」

を基本に岩手の豊かな食肉文化の価値を世の中に伝え、次世代に繋いでいくことを大切にして経営をしています。

スペインでの運命的な出会い

府金氏は10年前に行ったスペインのレオンで食べたセシーナ(生ハム)の美味しさに衝撃を受けたことから岩手の食材を使ってセシーナ作りを始めます。地元の岩手短角

和牛を野田村産塩で1年熟成させた生ハムとして商品化させ、昨年、地区大会を勝ち抜き、2019年12月14日に東京で開催された、全国の優れた食材を発掘する「にっぽんの宝物ジャパングランプリ」で最高賞のグランプリを受賞しました。まさに、スペインのセシーナは海を越え、府金氏の手で日本唯一の長期熟成和牛生ハム「ジャパンセシーナ」に生まれ変わりました。

ピンチをチャンスに変え一歩前へ!

「これまで運命的な人との出会いや地元歴史、文化、食、生産者と全てが繋がりが、まるで、岩手の豊かな食文化を発信するのは君だよと地域の先人が言っているようにも感じます。ここまですごいのは運が良かったからです。」と話す府金氏。これからも経営理念の「顧客満足から、顧客感動へ」を大切に、現在、大変な世の中でも決して臆さずに挑戦し続け、ピンチをチャンスに変え新しい一歩を進んでいきたいと報告されました。

ダイバーシティ委員会

9月1日(火) 岩手同友会 会議室にてダイバーシティ委員会が開催されました。ダイバーシティ委員会では年間の行事の中で障がいに関する制度を学習していく計画として、7月は障害者職業センターの利用制度について、そして今回は(株)一步 代表取締役 細川仁氏より「施設外就労」という内容でご報告いただきました。



(株)一步は平成30年から事業を開始し、施設の定員は40名、

サービス管理責任者の他12名が勤務しています。事業としては、岩手県民会館のカフェ運営、布草履など家庭用雑貨用品の製造販売、また楽天サイトで4年ナンバーワンのジュエリーポップコーンの製造販売もしています。施設外就労は4か所の農業現場での農業就労、マンシヨンの清掃などを清掃会社から受託し行っています。

施設外就労とは一般企業での就労を経験するというところで、他の工場や農場等で事業所管理の下で就労する労務形態です。施設外で就労することにより、障がいをもった方が普段、他の人と関わることに少ない状況が多い中、企業で就労しながら今まで難しいと思われるコミュニケーションを広げることができるといふ事例もあります。

一人の人間として共に働ける環境を

実践報告から、本来であれば、特に若い人が一般雇用で働ける環境、また企業がそういう人も一人の人間として受

け入れ一緒に働く事のできる環境になる社会をつくること同友会として目ざすところがだといふ事を学びました。初めて参加された方からは、「ダイバーシティ委員会というところで、何となく興味を持ち軽い気持ちで参加しましたが、自分自身障がいという種類も知らないことに気が付きました。まずはそこから学んでいき深めていきたい」という感想がありました。

社員共育委員会

会社は社員の自己実現の場

9月1日(火) 社員共育委員会が岩手同友会の会議室で行われました。

委員会では、今月からミニ報告をしていただき、企業の課題の一つでもある社員共育の解決の糸口になるよう意見交換をしながら行っています。

今回のミニ報告者は、東北酸素(株) 代表取締役 千葉厚氏よりお話しいただきました。社員として入社した千葉氏が代表に就任したのは2年前の

2018年。「100年続く会社へ」という目標を掲げ取り組んでいます。「会社が存続するためには社員教育はとて重要」と話す千葉氏。

東北酸素では社内研修を行っています。講師は社員が担い、年数に関係なく入社して1年たった社員も教える側になります。そのことで教える側も伝えることの難しさや気づきなど自分の勉強にもなります。「言われてやるのではなく何かに興味を持って取り組んで欲しい」そんな想いが社員教育を通じ社内に浸透してきています。お互いが学ぶためには教え合う環境、そして何より気づくことが大

切。会社は社員の自己実現の場、会社はそのためのサポートだと思っています。と千葉氏よりミニ報告がありました。

参加者からは、「気づきや心配りはとても難しい、常に何かを意識し続けることが大事だと思った。」「自社では社内全体を巻き込みながら社員教育を行うことはできていないので勉強になった。」などの感想があり、意見交換をして終了しました。社員共育委員会は、毎月第1火曜日15時30分から行っています。WEBでも参加可能です。ぜひご参加下さい。

岩手県中小企業家同友会

2020 中堅幹部・幹部社員共育講座のご案内

岩手同友会では経営者と幹部社員(将来の幹部も含)がともに学び、実践につなげる共育講座を開講しています。中堅幹部・幹部社員が企業をとりまく課題について共通の認識を持つとともに、もっとも信頼できるパートナーとして成長し合う関係をつくるのが重要です。そこで以下のような、4つの連続講座を設けました。

2020中堅幹部・幹部社員 共育講座 開催要項

【目的】 ①企業のビジョンを経営者と中堅幹部・幹部社員が共有し、それぞれの立ち位置と役割を再確認することを旨とします。
②自らの人生設計を明確にし、働くことに喜び、生きがいを感じることで企業に帰つき、地域に携つき共に成長し合うことを旨とします。
③経営者、幹部・中堅幹部社員共に本質的なものの見方、考え方を打ち立て、人間力を高め合うことを旨とします。

【講師】 企業経営者、他
【参加条件】 ①経営者と社員が極力一緒に参加できること。
②全講座に参加できること。
③ビジョンを共有できる社員を育てたいと思っている方。
④各講座終了後、社員の皆さまにはレポートを提出していただきます。



【日程】 全4講座(テーマは変更になることがあります)
「コロナ禍の中で中堅社員・幹部社員のあり方を考える」
①テーマ「震災と私たちの生き方」
日時 10月24日(水) 15時00分~17時30分
講師 (株)高田自動車学校 取締役会長 田村 満氏
②テーマ「今何が起きているのか。これからどのようなことが懸われるのか」
日時 11月12日(水) 15時00分~17時30分
講師 岩手県中小企業家同友会 事務局長 菊田 哲氏
③テーマ「SDGsのバックキャストで物事を考える」
日時 11月26日(木) 15時00分~17時30分
講師 岩手県中小企業家同友会 事務局長 菊田 哲氏
④テーマ「中堅幹部・幹部社員に期待すること」
日時 12月10日(木) 15時00分~17時30分
講師 (株)高田自動車学校 取締役会長 田村 満氏

【開催方法】 オンライン講座
(Zoomを使用しますので、参加者には後日ID・パスワードをお知らせ致します)
【参加費】 参加者1名につき10,000円
【申込締切】 10月12日(月)

◆お申し込みは、FAX又はe.doyuでお願い致します。

2020 中堅幹部・幹部社員共育講座が
スタートします!!

閉塞した環境下だからこそ、我われが！ 全国表彰受賞者を祝う会 岩手町で開催

県北支部・農業食糧生産部

会共催の全国表彰受賞者を祝う催しが9月15日、岩手町の石神の丘レストランで開催されました。今回は感染症予防の観点から、地元の支部役員と近隣自治体の方々に参加を限らせていただき、関係者のみでの開催となりました。

昨年12月に(株)肉のふがね府金伸治氏、(株)馬場園芸 馬場淳氏が、揃って「にっぽん

の宝物 JAPAN グランプリ2019」の肉・海産物調理加工部門、最強素材部門で、それぞれ部門別の日本一となりました。

併せてみなみよーとん(株)佐藤守氏が、農林水産省と全国担い手育成総合支援協議会が主催する全国優良経営体表彰で「全国担い手育成総合支援協議会会長賞」を岩手で唯一受賞。岩手同友会の県北支部・農業食糧生産部会

から3人の全国表彰者が出たことから、この度全国表彰の祝賀会を開催することになりました。



岩手町町長 佐々木光司氏からは、「県北地域から3人の全国表彰が出ることは、本当に素晴らしいこと。特に感染症の閉塞感の中、食糧農業の分野で全国を牽引し岩手を元気づけてくれることに感謝したい」、また岩

手同友会の農業食糧生産部会の初代会長であられた、葛巻町町長 鈴木重男氏からは

「岩手は農業食糧生産者が担う役割が非常に大きい。その意味でも同友会が培ってきた会社を良くしていこう、地域を元気づけていこうという、愚直な学び合いの継続が果たしてきた役割に、今後も注目している」と期待を込めたご挨拶をいただきました。

今回はグループ討論が難しかったため、受賞した3人からは、それぞれスライドを使用してミニ報告をいただきました。短時間の中でも「人生そのもの」とも言える感動的な密度の濃いプレゼン内容に、参加者から時に声や拍手が起きるほどでした。

最後に県北地区長、農業食糧生産部会長の佐藤守氏から「むしろこうした閉塞した環境下だからこそ、我われが経済を回していく、という気概を持って、今後も食糧生産に向き合っていきたい」と皆様への感謝の思いが話され、会場には感動の輪が広がりました。

地域の中小企業の実情を共有し、より強い連携を 東北財務局長を迎えて懇談

9月10日、財務省東北財務局長原田健史氏、東北財務局盛岡財務事務所長阿部敏宏氏

はじめ4名が岩手同友会事務局を訪れ、代表理事、副代表理事ほか7名と今後の地域連携についての意見交換を行いました。

なかでも金融経済教育についての取り組みでは、財務局として地域の小中高生への出前授業を定期的に行っており、将来に向けて生きること、働くことを考える上で、金融リテラシーが重要であること。また、できるだけ早い時期に国の財政状況についても



問題意識を持つことが、自分の人生設計をする上でも大切ではないかなど、

次世代の子どもたちにとどのうに経験を伝えていくかの話題で盛り上がりました。日常的に同友会の企業からも地元小中高校での授業で「何のために働くのか」「人生設計を描く」などのテーマで体験を話す機会が多いことにも触れ、今後特に地域で活躍する人材教育の面で協力していくことを確認しました。

また東日本大震災を経ての復興状況についてやこの間の新型コロナウイルスに関する同友会の対応、最新の岩手同友会の景況調査結果についても情報共有し、金融機関の現場での対応状況についても今後へ向けての意見交換がありました。

今回の懇談は岩手同友会として初めての開催でしたが、疲弊するコロナ対応の中で地域の中小企業の実情を把握し、より地域連携を進め、丁寧な支援をしたい、との財務局の意向が伺うことができ、今後の横連携の広がりが期待できる契機となりました。



人間の脳の創造力

シリーズコラム ②9

ドイツからの風



池田憲昭氏

プロフィール
1972年長崎県生まれ
岩手大学人文社会科学部(ドイツ文化専攻)卒業、フライブルク大学森林環境学ディプロム課程(修士相当)卒業
フライブルク地域を拠点に、ドイツ環境視察セミナーのオーガナイザー、異文化マネージメントのトレーナー、企業サポーター、日独プロジェクトのコーディネーター、専門通訳、ジャーナリストとして活躍されています。2011年9月Arch Joint Vision社を設立 現代表。

今、ドイツの著名な脳生物学者の書いた本を読んでいます。脳の仕組みと、個々人の脳の「展開」と「社会変革」の展望について、一般向けにわかりやすく書かれたものです。

人間の脳は、ゲノム(遺伝子)によって完全にプログラミングされた硬直した「マシン」ではなく、周りの人間や社会、自然環境との相互作用のなかで「展開」して行く柔軟な「生きもの」です。最近の研究では、人間の脳は、胎児や子供のときだけでなく、歳を取ってから大きく展開するポテンシャルを持っていることが解っています。

人間の脳は平穩な「省エネモード」を追求します。その状態が一番その能力を発揮できるのです。しかし解決の見通しがつかない問題に直面すると、脳は「混乱」し、エネルギー

ギーをたくさん消費する状態になります。人間が一度に脳に供給できるエネルギー(グルコース)の量には限りがあり、エネルギー消費過多の状態が続くとパンク(例えばBurn Out)してしまいます。だから脳は、様々な「問題解決策」で沈黙化、すなわち「省エネ化」を図ろうとします。

現在の「コロナ禍」は、個々の人の脳を混乱させた、また、現在でも混乱させている大きな問題ですが、人間は、「監視」する、「制御」する、「無視(心理学的に表現すると「抑圧」)する、「過小評価」する、「さらには「人に罪を押し付ける」といった行為で、問題解決(「脳の沈黙化」)を試みています。これらは個々人の脳や社会がパンクすることを、当面の間、大部分防ぐ効果は発揮していますが、長期的で根本的な問

題の解決には繋がりにくいものです。逆に、過剰な「監視」や「制御」は、人々の心を窮屈にし、無視(「抑圧」)する手段としてよく用いられる「暴飲・暴食」や「衝動買い」などは、将来的に健康や家計にダメージを与えることにもなり、「過小評価」や「罪の押し付け」という行為は、迷信や不信、誤解、憎悪など、社会にとってネガティブなものを増加させます。

人間は、様々な問題や課題を、高度に発達した脳の方で生み出した科学とテクノロジーで解決してきました。またそれによって新たな問題も生み出してきました。とりわけ医学の分野で現在生まれている新しいテクノロジー(治療法や薬やワクチン)は、今回のコロナの問題解決にも大きな貢献をするでしょうし、同時に新たな問題も生じさせるでしょう。

一方で、今回の世界的なコロナ危機は、多くの人々に、不安とともに、時間と心の余裕、新しい視点を与え、仕事や生活、人とのコミュニケーション

シヨンの変化をもたらしています。これらは、行き詰まっている現代の人間社会を背景に、コロナの以前から起こっていた「生き方」の転換です。科学やテクノロジーで外的環境を変えて問題解決をするのではなく、自分自身の感じ方、考え方、行動を変えて、すなわち自ら内的に「変容」し、現代社会の様々な問題を根本的に解決していく流れです。家庭、学校、職場、コミュニティ、政界や経済界でも、ドイツでも日本でも。

社会の「歯車」、すなわち「対象」としての個人から、周りの社会や人や自然環境と有機的に相互作用しながら解決策を「創造」し、社会に貢献していく「生きもの」、すなわち「主体」としての個人への変容が加速しています。それは人間の脳の「展開」のポテンシャルに支えられています。人間の脳が、ゲノムにプログラミングされた「マシン」ではなく、解決策を求めて柔軟に変化し発展して行く「生きもの」であることは、未来への希望です。

「快適な住環境の実現」が エネルギーシフト具現化の鍵

「資源とエネルギーにかけるお金を地域から外に出さないために必要なこと」

今年度の岩手県の温暖化防止において県民会議「できることからECOアクション」の最高賞に、40社を超える応募の中から(株)高田自動車学校と岩手同友会のエネルギーシフト研究会が選ばれました。いずれもこの間の研究会の取り組みが大きく評価されたもので、人と企業をつなぎ、連携での新たな仕事の創出や新会社の創業に結びつけ、結果を出してきたことにあります。環境経営の指標である、大幅なコスト削減や利益創出にも効果があることが、選定ポイントとなりました。

岩手県は以前から急激な人口減少、少子高齢現象が予見されていましたが、更に東日本大震災被災により、想定よりも遙かに早く地域が大変な

環境下に陥りました。閉塞感、焦燥感の中で「地域に新たな仕事が生まなければならない」と、2014年に立ち上がったエネルギーシフト研究会は発足から7年が経過し、重ねた勉強会はこれまでのべ107回。そこで培った知識を自社や地域での実践に結びつけるための欧州視察を、研究会創設以来6年連続で続け、85名もの方々に参加いただきました。

快適に過ごせる建物の基準

なぜこれだけの回数と、成果が生まれてきたのか。その背景の一つに、エネルギーを「省く」、「小さくする」という、誰でもどの企業でも今日から取り組めることに着目し声を

あげ続けてきたことにあります。その具体例が省エネ、小エネ建築への視点です。

岩手県

は、世界中で最も寒いと表現される程、断熱性能が低い住宅が多くあり、と云われていました。この原因は様々考えられますが、視察や研究会を重ねる中でわ



かってきたことがいくつかあります。その最も大きな要因はまず市民、企業、自治体それぞれの意識の問題です。次に実際に行動に移すための資金や金融も含めた仕組み、更には専門人材、建物の性能、企業の取り組みへの評価制度等、基準やルールの問題が見えてきました。またバックキャストで計画的に継続して取り組む、めざす目標がある

ことは、重要なポイントであることが見えてきました。欧州視察の現地での一番の驚きは、建物の基準性能が「外気が氷点下でも、無暖房で16度以下になってはいけない」と条例で決められていることでした。むしろそうした建築物でなければ、快適どころか健康被害に遭うという意識さえあります。

岩手は、脳血管患者数が

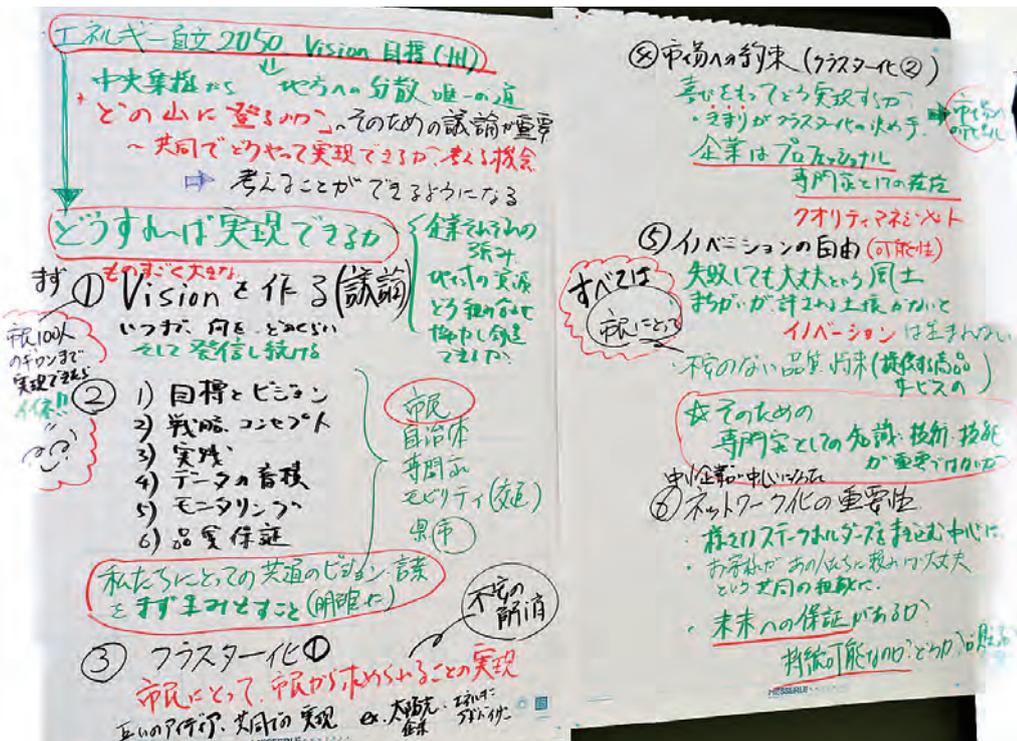
全国ワーストワンです。その背景には寒暖の差が大きい住居によるヒートショックも原因の一つと言われています。氷点下の寝室で吐く息が白くとも、布団を被るとい習慣も影響している可能性があります。加えて、初期のイニシャル費用が高くとも、低いランニングコストの効果の方が上回るという、長期的な視点が評価されることも大きな違いです。

「お試し」地域専門機関 寄り添う地域の専門機関

岩手では2050年にCO₂排出ゼロ実現を、県知事が明言しましたが、これから建てる新築住居や改修も、25年〜30年は優にもつ建物です。2050年を展望した時、今すぐに取り組まないといけないと。岩手には岩手型住宅という目標性能は掲げられていますが、その実現ための性能を評価する機関が必要です。更に建築現場を担うべき専門技術者育成の問題もあります。

北海道には北方建築総合研

究所(道総研)が旭川にあり、
①北海道の決めたルールをもとにした安心して頼める業者の登録・開示、②住宅の基本性能(省エネ断熱・耐久・耐震)、③専門技術者の登録制度、④住宅性能の見える化と記録の保管を行っています。古くから官民協同で取り組んできたもので、何よりも困ったときにいつでも相談に行ける仕組みが、北海道の住まいの性能を担保する大きな要因になっています。



フォーアールベルク州エネルギー研究所にて

私たちが毎年視察で訪れてきた、オーストリアのフォーアールベルク州のエネルギー研究所も、すでに創立から30年の歴史ある独立した機関です。市民との100回以上にも及ぶ意見交換を重ね、州としての建築性能の基準を定めました。研究所に登録していない建築部材は地域で使えないという徹底ぶりです。更に企業や自治体のエネルギー環境への取り組み評価も客観的に行い、公にするなど、数値化し誰もが恒久的に見えるようにする。そして住民には優しく、「エネルギー家計簿を付けてみませんか」とお試しください、のスタンスで環境やエネルギーへの意識をじっくり涵養する住民に寄り添った研究専門機関になっています。

その掲げるポイントは、① 大きなビジョンを掲げ発信し続ける(いつまで、何を、どれくらい)、② 共通の言葉を明確に出すこと(目標、戦略、コンセプト、実践の蓄積、データの蓄積、モニタリング、品質を保証する仕組み)、③ 市民協働と産学官金イノベー

シオン(クラスター化)、④ 中小企業の協業・連携ネットワーク構築です。

岩手県は今後、地域の少子高齢現象は急激に進んでいきます。そのときに頼られるのが、技術技能を持った地元中小企業です。特にお年を召した方々にとって暖かく寒くない住まいへの断熱改修など、健康寿命を長くするために、中小企業にとつての新たな仕事づくりの面でも、エネルギーシフトの具現化が地域に大きな利益をもたらします。

岩手同友会のエネルギーシフト研究会には、欧州へ27回訪れ建築を研究実践してきたエネルギーアドバイザーなどの専門家が揃っています。

『資源とエネルギーにかけるお金は地域から外に出さない』という覚悟で地域内資源循環に今すぐ取り組まなければ、地球が持たない、そうした危機感を持った方々がこの指止まれで集ったとき、理想は現実になっていくのだと思います。

「専門家」をいかに増やすか

わが社の商品紹介



遠野市にある(農)宮守川上流生産組合では、岩手県産の農産物を使用した各種ジュースを製造、販売しています。今季の限定品として、各種ジュースのパック入りジュースをつくりました。通常商品のビン入りとは違って、レジャーのお供としてお手軽に持ち運べます。また、冷凍したものも半解凍させたシャイベット状のものも、健康的なデザートとしてもお楽しみいただけます。特にオススメは「キウイ」。遠野でキウイが収穫できるのは意外かもしれませんが、農家の軒先にある1、2本の樹から晩秋に収穫できるキウイをかき集め、リングとミックスしてつくりました。価格は1個 380円(税込み)。お問合せは、(農)宮守川上流生産組合 加工部 (0198-67-3770)まで。

■本紙掲載の例会や諸事業には、所属支部に関係なくどこにでも参加できます。ご連絡下さい。
 ■例会や役員会などのカレンダーと事業案内を随時更新しています。
 ■同友会ホームページをご利用下さい。
 ■事業への出入返信は、同封のファックス返信用紙またはedyuをご利用下さい。

ゆたかな幸せのために、より良い環境創りで真の循環型社会を目指します。

浄化槽保守点検 植物 食用品 廃棄物 BDFの製造・販売 BDF肥料 エネルギー 光合成 CO2

紫波環境株式会社
 岩手県紫波郡紫波町南日詰字小路口70-1
 TEL:019-672-2656 FAX:019-601-2686
 http://shiwakankyo.com/

し尿・浄化槽汚泥収集運搬

安心して暮らせる地域づくり
 共に繁栄する仲間づくり
 社員の生きがいづくり

各種配電盤、制御盤、計装盤の開発、設計、製作、施工
 特殊配線、いちご閉鎖型高設栽培システムの製造・販売

東日本機電開発株式会社
 〒020-0401 盛岡市手代森5-19-10
 TEL:019-675-2277 FAX:019-675-2288

Southern Iwate **DSG** サザン岩手ドライビングスクールグループ
 Southern Iwate Driving School Group

陸前高田ドライビングスクール 三陸技能講習センター
 RIKUZENTAKATA DRIVING SCHOOL Sanriku skill training center

平泉ドライビングスクール 遠野ドライビングスクール
 HIRAIZUMI DRIVING SCHOOL TOHNO DRIVING SCHOOL

携帯サイトはこちら
 http://www.si-dsg.com /mobile

注文すると「明日」来る。
 オフィス・事務用品通販なら「アスクル」で

日用品 消耗品 文房具 飲料 工具

外出せずにFAX、Webにてご注文できます！
 ご登録・お問い合わせは平金商店へお待ちしております。

<https://www.askul.co.jp/ag/hirakin/>

ASKUL AGENT 株式会社 平金商店
 アスクルエージェント TEL:019-624-2121

人と自然にやさしい環境を創り
 地域型企業として貢献します。

水まわりのリフォーム
 キッチン バス・トイレ 高断熱

住宅設備のアフターサービス
 エコキュート ボイラー 暖房

浄化槽
 安心安全！
 調査・施工
 メンテナンス
 修理

北上営業所
 盛岡市

岩手日化サービス株式会社
 盛岡市黒川2-2 地割56番地
 電話 019-696-5611

**オリジナルラベル
 ワインを作成します**

周年記念、御中元、お歳暮、ノベルティ等

SHIWA 紫波
 自園自醸ワイン 岩手県紫波郡紫波町遠山字松原1-11

社名ロゴ 写真OK 包装、のし無料 12本以上 作成料無料

岩手県紫波郡紫波町遠山字松原1-11
 自園自醸ワイン紫波 (株)紫波フルーツパーク 醸造元
 〒028-3535 岩手県紫波郡紫波町遠山字松原1-11

お申し込み・お問い合わせ
Tel. 019-676-5301

TUENO

包装設計のプロフェッショナル「東北ウエノ」は、「適材適包」でお客さまをサポート致します。

「PACKAG ENGINEERING」

詳しくはホームページで <https://www.touhokuueno.co.jp/>

株式会社東北ウエノ
 〒021-0893 本社：一関市地主町3-35 TEL:0191-21-4531
 テクニカルセンター：一関市地主町7-15 TEL:0191-32-5020

輸送包装便覧.com <https://www.transport-package.com/>

物を大切にし環境にやさしくありたい 使わない人から使いたい人へ
 総合リユースショップ **Doki-Doki 2nd STREET**

(株)トータル・リユース
 代表取締役社長 **伊瀬 幸郎**
 ise yukiyo

本社 〒026-0041 岩手県釜石市上中島町2-2-33
 TEL:0193-21-2126 FAX:0193-21-2127
 携帯 090-8780-3296
 E-mail: trise@arion.ocn.ne.jp

DOYU
 I W A T E
 同友いわて
 2020
 Vol.143

発行/2020年10月1日発行
 岩手県中小企業家同友会
 広報委員会

〒020-0878 岩手県盛岡市着町4-15 カガヤ着町ビル3F
 TEL:019-626-4477 FAX:019-626-1644
 Mail: info@wate.doyu.jp